

女王陛下率いる英国王立園芸協会 創立200年記念を迎えて

英国王立園芸協会日本支部

鈴木邦彦

今回、英国王立園芸協会200年記念にあたり、当協会紹介の原稿依頼をいただきましたが、実は私はちょうど2年前にこの協会の事務局にお世話になる機会を得たばかりです。

私は、昭和44年に卒業し、当時発展拡大途上の百貨店に入社。市民産業の一翼を担う為の川上から川下への事業化ということで、新設園芸部を立ち上げました。当時業界では珍しい直営店舗の運営や、舞鶴につばき園直営農場を所有していたことから、1990年大阪の花と緑の博覧会に合わせて、国際つばき大会を舞鶴に誘致し、事務局運営をしたことなどを思い出します。また、出身学部が園芸ということで、園芸業界に関係した英国王立園芸協会の事務局として、業界の仕事ができることは大変喜ばしいことと思っております。

さて、本題に入りますが、英国王立園芸協会(RHS)は、1804年にロンドンのピカデリーにあった小さな本屋「ハッチャード」で、陶磁器で知られるウエッジウッド設立者の長男ジョン・ウエッジウッドら7人が発起人となって、スタートしました。

2004年、設立200年を迎えるにあたり、2月26日、ロンドンフラワーショウのプレビューに合わせて、本部ローレンス・ホールでエジンバラ公(エリザベス女王の夫君)を始め、ロンドン市長、園芸関係の著名人を集め、総勢500人で、今年行われる一連の記念イベントの開始宣言が行われました。日本においても、去る2月26日、英国大使館において、RHS J共催で記念式典を行い、マスコミ、業界関係者を招待して、英国王立園芸協会の存在をアピールしました。英国王立園芸協会の歩みについては、後段に年譜にして紹介いたします。

英国王立園芸協会の活動

世界中の園芸愛好家対象とした園芸普及・啓蒙活動として、6つの柱をもって運営しております。

フラワーショウの開催

世界の3大フラワーショウと呼ばれている、チェルシーフラワーショウ、ハンプトンコートフラワーショウ、タットンパークフラワーショウの開催。

RHS 付属ガーデンの運営

ウイズリーガーデン(サウスイースト)、ローズモアガーデン(サウスウエスト)、ハイドホールガーデン(イーストアングリア)、ハロウカーガーデン(ノースイースト)と4つの英国の地域環境に応じたガーデンがあり、特にウイズリーガーデンは、RHS本部の中心的存在として運営をしている。

図書館の運営

リンドリー図書館は、世界でもっとも重要な図書館で、園芸および造園、庭園史、フラワーアレンジメントなどの様々な分野にわたる5万冊以上の書籍、そして2万2千点以上のボタニカルアート・コレクションと世界最大規模の園芸トレーディングカタログ・コレクションが所蔵されている。

出版

英国および世界の最新園芸情報を満載した会報誌「The Garden」の発行を始め、様々な園芸専門書籍、小冊子、ビデオなどを出版、制作している。

園芸品種名の登録

現在、9部門の国際名称登録機関としての機能を果たしている。これは、世界各地で次々に生み出される植物の新品種に対して、名前の重複を防ぎ、国際的な混乱をきたさないように、属別の登録機関が世界各地に設置されているが、その一端を担っており、RHSが登録機関として指定されている属は、スイセン属、デルフィニウム属、ツツジ属、ユリ属、ラン類、ダリア属、ナデシコ属、コニファー類、クレマチス属の9部門である。

研修生制度

国際的に若い園芸家を育成するための研修制度をもっており、世界各国から受け入れている。サファイテフ

イケート、アドバンス・サフィティケート、ディプロマ、マスター資格認定があり、資格は英国全土の200を越えるカレッジで提供される。日本支部においても毎年、RHS研修生選考試験を行っており、本部への推薦作業を行っている。研修制度の案内は、ブリティッシュカウンシルを始めとして、園芸学部、農学部のある大学、短大、園芸専門コースのある専門学校などのHPで募集を告知。選考審査には、当協会理事である、園芸学部横井名誉教授にもお手伝いをいただいている。

RHS 200年のあゆみ

RHSの歴史は、英国の園芸の歴史そのものといっても過言ではないでしょう。

誕生1804～1820

- 1804年 ロンドン園芸協会設立。創立者はジョン・ウェッジウッド（ウェッジウッド設立者の長男）、ジョーゼフ・バンクス卿、ジェイムズ・ディクソン、ウィリアム・フォーサイス、ウィリアム・タウンゼンド・エイトン、R.A. ソールズベリー、チャールズ・グレビルら。
- 1809年 協会は国王による初の特許状を授与される。
- 1818年 協会は、送付された植物を一時的に保管するため、ケンジントンに初の庭園を得る。庭園はその後1822年に閉鎖される。
- 1821年 協会は、チジックにあるデボンシャー侯の私有地33エーカー（約13万3500㎡）を賃借し、そこに実験栽培用の庭園を作る。

成功と失敗 1821～1858

- 1820～1846年 協会はプラントハンターを海外に派遣。ジョン・ボッツ、ジョン・ダンパー・パークス、ロバート・フォーチュンらを中国へ、ジョージ・ドンとジョン・フォーブスをアフリカへ、デイビッド・ダグラス、テオドール・ハートウェグを北米に、そしてジェイムズ・マクレーを南米に派遣。
- 1827～1829年 初の祝宴を開催。ロンドンシーズンと呼ばれる社交行事の一部として定着する。1829年は雨により中止となった。
- 1833年 競合する一流の協会と共に、チジックにて

展覧会開催をスタートさせる。

- 1836年 ガーデナー試験導入。
- 1841～1846年 化学委員会、植物の栄養と肥料に関する調査を始める。
- 1857～1859年 財政危機。協会は植物標本集および庭園の植物などを多数売却。さらに図書館を売却。
- 1858年 果樹委員会（後の果樹・野菜委員会）、花卉委員会設立。優秀な植物に与えられるファースト/セカンド・クラス・サーティフィケート（後のメリット賞/AM）制定。

ケンジントン時代 1859～1888

- 1861年 新しい特許状により王立園芸協会と名称を改める。グレート・エキシビジョンのために1851年に王立委員会から賃借して作った新しい庭園をケンジントンにオープン。グレート・エキシビジョンのオープニングの一部として、英国初のフラワーアレンジメントコンテストが開催される。
- 1862年 協会のケンジントンガーデンにおいて第2回グレート・エキシビジョンが開催される。初のグレート・スプリング・ショウ。
- 1865年 ガーデナー開発委員会：初の全国ガーデニング検定試験を開始。
- 1866年 国際園芸展と植物集会開催。収益により1859年故王立園芸協会会長ジョン・リンダリーに売却された図書館を買い戻す。
- 1866年 王立園芸協会会報誌開始（その後1976年に名称は『The Garden』と改められる）
- 1867～73年 協会はベリー・セント・エドモンド、レスター、マンチェスター、オックスフォード、ノッティンガム、パーミンガム、パースなどで地域ごとに行われる一連のショウを毎年主催。
- 1868年 RHSは種子売買の実態を調査するため委員会を設ける。その結果、粗悪種子法(1869年)が制定される。
- 1883～1885年 初の集会：全国リング集会、全国ナシ集会主催。
- 1888年 協会はケンジントンの敷地を立ち退く。

再興 1888～1914

- 1888年 グレート・スプリング・ショウはテンブルガ

ーデンに移り、ウエストミンスター・ドリル・ホールにおいてショウが開催される。

- 1893年 R H S一般試験の開始。
- 1895年 チジエックにおいてテベジタリアン晩餐会。
- 1897年 ビクトリア栄誉賞制定。
- 1899～1906年 第1回、第3回交雑育種国際会議を開催。
- 1903年〔R H Sガーデン・ウィズリー誕生〕
トマス・ハンベリー卿がウィズリーの庭園を新しい実験栽培園として協会に寄贈。
- 1904年 協会創立100周年を記念してヴィンセント・スクエアにニュー・ホール（現リンドリー・ホール）が建設される。
- 1908年 「スイセン属分類名リスト」が初めて刊行される。協会初の目録。
- 1911年 全国園芸ディプロマ導入のための準備が始まる。第1回試験は1915年に開始。
- 1913年〔チェルシー・フラワーショウの始まり〕
グレート・スプリング・ショウがチェルシーの敷地に移る。
- 1914～1918年 第一次世界大戦。

2つの大戦の狭間で 1919～1939

- 1922年 全国果樹試験栽培がウィズリーで開始（1960年にはプログデールに移る）。最初のトラスト（1870年に設立）からヴィーチ記念メダル授与を引き継ぐ。
- 1928年 グレイコート・ブレイスにニュー・ホール（現ローレンス・ホール）がオープン。
- 1928年 R H Sガーデン・プランニング集会開催。ランドスケープアーキテクト協会の前身。
- 1929～1931年 「インデックス・ロンディネンシス」の刊行。協会が1909年に編纂を始めた、植物画の標準的な著書目録。
- 1929年 名誉会員制度の設立。
- 1935年 R H Sは、初の生物農薬 *Encarcia formosa*（オンシツコナジラミ駆除剤）の供給者となる。
- 1939年 園芸カラーチャートの初版発行。
- 1939～1945年 第二次世界大戦。

戦後の発展 1945～1984

- 1945年 R H Sはロードデンドロン協会を引き継ぐ。
- 1950～1952年 R H Sは、1950年園芸大会議におい

て栽培植物の学名コードを提案。1952年に開催された第13回国際園芸大会議（R H S主催）において第1版が承認、刊行される。

- 1951年 『RHS Dictionary of Gardening（R H Sガーディング事典）』刊行。
- 1955年 国際植物登録機関の発足。R H Sは現在9部門の登録機関としての職務を果たす。9部門それぞれの植物の登録機関として指定された順に列挙すると、スイセン属、デルフィニウム属、ツツジ属、ユリ属、ラン類、ダリア属、ナデシコ属、コニファー類、クレマチス属となる。
- 1979年 英国庭園・植物保存評議会（NCCPG）が発足。

活動の広がり 1984～現在

- 1984年 ロビン・ハーバートが会長に就任し、リドリー・レビュー委員会を発足。協会の活動と経営を報告させる。
- 1987年〔R H Sガーデン・ローズムーア誕生〕
レディー・アン・パーマーが、ローズムーアに所有する庭園を協会に寄贈。
- 1987年〔初の支部が日本に誕生〕
（株）西洋環境開発とR H Sがスポンサー契約を締結し、R H S Jが発足。
- 1992年 『New RHS Dictionary of Gardening』刊行。
- 1993年〔R H Sガーデン・ハイドホール誕生〕
ディック&ヘレン・ロビンソンがハイドホールに所有する庭園を協会に寄贈。
- 1993年〔ハンプトン・コート・パレス・フラワーショウ誕生〕
- 1999年〔タットン・パーク・フラワーショウ誕生〕
- 2001年〔R H Sガーデン・ハーロウ・カー誕生〕
R H Sは北部園芸協会と合併。北部園芸協会所有のハーロウ・カーはR H Sの4番目の庭園となる。
- 2002年 R H Sの管理の下、初の「プリテン・イン・ブルーム」（街や公共施設の緑化活動）のコンテストが開催される。

英国王立園芸協会日本支部

17年前に、日本の園芸愛好家が伝統あるR H Sに気軽に参加できるように、また、日英の園芸文化の掛け

橋となるために設立。現在事務局は東京池袋サンシャイン60階、38階に置いています。

今までの大きな活動としては、1990年、大阪で開催された「国際花と緑の博覧会」に、18世紀から19世紀のイングリッシュガーデンとして、フォーマルガーデンとモダンガーデンを出展。2000年、淡路島で開催された国際園芸・造園博「ジャパンフローラ2000」では、RHS Jとして初めてショウガーデンを出展。その後、当協会法人会員である千葉・君津にある内山ガーデン&アーボレイタム内に移設。RHS J記念庭園として保存管理されており、会員の学習の場として利用しています。また、毎年英国から講師を招いて「国際園芸フォーラム」を開催し、日英の園芸情報の交流の場を提供しています。

日本ハンギングバスケット協会が1996年に発足した際、ハンギングバスケットマスターを本部RHSの承認を得て、RHS Jよりマスターの称号を授与し園芸普及活動に努めています。

日本支部は現在、全国に3,200名の会員が登録されており、会員には、本部から直接届けられる「The Garden」と日本支部が発行する会報誌とともに、会員の園芸情報の共有手段としてセミナーや見学会を開催

し、活動しています。

また、日本支部内に付属団体として、2001年コンテナガーデニング協会を設立。コンテナガーデニングが身近な園芸の楽しみであると同時に、園芸、造園・施工などの分野で活躍が期待されるプロを養成する「コンテナガーデニング専門講座」を開催。講座終了後、試験合格者には、「コンテナガーデニング・マスター」の称号を授与しています。

日本支部の活動として、まだまだ当協会の存在の認知度は低く、RHSおよびRHS Jの存在と活動について、大いにPRする必要があります。その機会として、来年、本部200年記念事業として、本部リンドリー図書館より**ボタニカルアートの原画展：400年の大系「植物画世界の至宝展」**を企画。

2005年、東京藝術大学の美術館(6月11日～7月18日)、神戸市小磯記念美術館(7月23日～9月4日)、そして福岡で開催される第22回全国都市緑化福岡フェアの開催中に展示公開し、九州地区における当協会のPRの場として期待をしています。

当協会として、本部創立200年という大きなモチベーションを活かして、発展と会員の拡大を図るチャンスにしたいと願っています。

RHSガーデン・ウィズリー©RHS

